

# 寺報

龍正寺

日なた 77号

異体同心  
同体異心

一口法話  
日蓮大聖人御遺文云

日  
延書



<平成26年10月>

宝龍会  
護持会

日蓮宗 宝雲山 龍正寺(岐阜市)

平成26年9月23日(火)

# 秋季彼岸中日法要会 開催報告



先祖供養のお焼香



声をそろえて南無妙法蓮華經



住職法話「回向」



いただきま〜す



さあ、皆さんでお供えをいただきましょう

# 任職一言

日蓮大聖人御遺文に云く

「異体同心なれば万事を成し  
同体異心なれば諸事叶うことなし」

心のつながり、人とのつながりは、一人で決して  
生み出せない智慧や勢いを生み出します。  
どんなに多く人が集っても、心と心がバラ  
バラでは、ごく簡単な事さえも達成する事は  
難しいでしょう。

当山に於いて、秋季彼岸会中日塔婆供養が  
ありました。法要の流れが余りにもスムーズに  
行われ、任職を初め役員もおどろきました。  
きっとみんなが異体同心になったからではな  
いでしょうか。

「ひとつの事をみんなで行う」は当山のスローガン  
です。

これを異体同心です。

御家庭の中でも同様ではないでしょうか。  
家族が心を合せて、ひとつの方向に行けば  
物事がスムーズに流れ、明るく、楽しい幸せな  
時が過していきけると思います。

お釋迦様、私たちの幸せを願ひ、法華經を  
お説きになられ、日蓮大聖人は実践され、法  
華經を広められた方でありませう。

法華經の、お教えの風になれ、幸せな  
人生を送って、いただきたいと思ひます。

合掌

## ⇄ わか家の異常気象 ⇄

今年「異常気象の夏秋」です。

夏には大雨で土砂崩れがあり、多くの方が被害にあわれ命を奪われました。9月には関東エリアで震度4~5クラスの地震がありました。月末には御嶽山の噴火です。地球はどのようになってしまうのでしょうかと不安になります。

我家にも異常気象の夏秋です。主人が我家に異常気象を持ち込みました。相定外の「病気」です。

いや相定できなかつたわけではない…。気がつかないふりをしていたのかも知りません。

今思うと、もっとしっかり主人の体の事を注意して気がかうべきだったと深く思っています。”後の後悔先に立たず”です。

以前の私であれば、きっとこのような考え方は出来なかつたと思います。

多分”健康管理をいっつもロウるさいほと言っていたのに、全然聞こうとしなかつたから…こんな病気になるのよ!!”と声を大にして、主人を責めていたと思います。

生きて来た環境も価値観も違う二人が、一緒に生活をはじめて気がつくと33年の年月が流れていました。その長い年月の間、私は自分の考えが良いと思ひ込み、主人に押しつけていたのかもしれない。

自分の尺度で物事を考え判断して、それにあてはまらない事は違ふときめつけていたのかもしれない。

もし、自分の思いと違っていて、何故 そのように相手が考え、行動をするのかを、相手の立場になつて考えて優しさを言葉にしていたら、主人も耳を傾けてくれていたかも知れません。

物事は その人の立場や状況で、答えが必ず一つとは限りません。

しかし思いが通じないと、無理でも思いを通そうとします。つまらない感情で、売り言葉に買い言葉になり、それにとまなう態度をしてしまいます。後で考えれば、「言い過ぎた」、「やり過ぎた」と気がつきます。

しかし、「後の祭り」です。

人は自分が正しいと思ひ込むと、人の言葉に耳を傾ける事ができなくなるようです。親切で注意してくる人にさえ牙をむいてしまう事があります。

それは、自分を否定されていると思ってしまうからでしょうか？

私は 日蓮大聖人のお教えと法華經によつて、自己覚知が少しずつですが、出来るようになりました。思いが通じない時、自分の思いが伝わりなかつてイライラしていませんか？相手の気持ちを考えているか？自分の思いを押しつけてはいませんか？と心の中で自問自答しています。

ベットの横たわる主人をみつめ、元気になつたら、私の尺度ではなく、彼の尺度で彼をみつめたいと思います。

私と彼との尺度の違いを少しずつ後半の人生で縮める事が出来れば幸いです。

我が家は この異常気象 で危うく危機をくいとめる事が出来そうです。

## — お彼岸 —

朝晩と日中の気温差もあり、めっきり秋らしい気候になってきましたね。季節の変わり目、体調崩されない様にしたいものです。

広島の上石流から1か月以上が経ちました。ちょうどその頃テレビで上石流で流されてしまった墓地の様子が映されていました。どこにお墓が建っていたのかも分からず、墓石を探っていた女性は、その地で手を合わせてみえました。

私は今まで、当たり前前のようにお墓に向かい手を合わせていました。でも本当は、その場所があること自体が有難い事なんだとお彼岸を迎えるにあたり教えて頂いたように思います。

お彼岸の1週間、ご先祖様のご供養はもちろん、自分自身の反省と自覚を促す期間であるとされています。日々精進ですが、特にこの期間は自分の言動を振り返る方がいいと思います。

息子が公園で大きなバッタをつかまえてきました。虫かごに入れて、見ているだけの数日。「餌も食

「バテいはいから 死んじゃうよ...。そうよ。たらかわいそうだから放してあげたら？」と私は何度か息子に言いました。あまり身に入っていない様子で、大きなバツタをつかまえた事が嬉しく放すのはもったいないと感じていたように思いました。その頃、日蓮宗新聞で「命」についての特集が載っていました。これだ!! と思つた矢先、バツタは死んでしまつたのです。「ほーら!! だから言つたでしょ!!」と言つてしまいそうな状況。私は新聞に目を通していたお陰で、「バツタさん死んじゃつてかわいそうだね...。どうしてつかまえてカゴに入れたままにしておいたの？」と声をかけることが出来ました。息子は「見たからだから...」と答え、「バツタさんも生きてるよ。ごはんも食べたし、友達とも遊んでたから、死んじゃないかよあ」と言つると息子はしっかりと理解できた様子でした。その証に、金魚やザリガニのお世話も進んでやるようになりました。

私にとつても子どもにとつても自分のバテを反省できたお彼岸となりました。



# 「心の弱さを克服できた人が 最終的には人生の勝利者となる」

## 〈日蓮の言葉〉

御いのりの叶い候は、ざらん弓のつよくしてつるよはく、  
太刀つるぎて、つかう人の臆病なるやうにて候べし。  
あへて法華経の御とがにては候べからず。

## 《訳》

祈りが叶わないのは、立派な弓であるのに、弦が弱い  
ようなものであり、また、鋭い太刀や剣をもっているが、  
使う人が臆病であるために役に立たないような  
ものだ。けして、法華経のせいではない。

結果を出すのは、自分自身である。

その通りだと思うが、手を合わせていても、なかなか  
変化が来なかったり、苦しいと、何で、と思うこともしばしばある。

宗教というのは、何をやってもうまくいかず不幸に落ち込  
んでいる人を救う役割がある。むしろ、そういう何を  
やっても救われない人のためにあるといってもいい。

日蓮は、南無妙法蓮華経という題目を唱えれば  
誰であろうとも成仏は疑いないと言っています。

しかし、一方で日蓮は弓が強くても弦が弱くても

矢は遠くへ飛ばないし、立派な刀を持っていても月意病であっては使いこなすことができないと言う。つまり成仏するかどうかは、その人の強い信心や実践にかかっているというのである。

成仏するための方法は教えるが、結果を出すのは、最終的には自分自身の努力だけという。

正しい教えであっても、それを間違っ使ったり、教えどおりに実践しなければ結果は出ない。

人生の勝敗を決めるのは心の持ち方次第です。

「私は、こんなに一生懸命やっているのに、ちとも結果が出ない」という人がいる。そんな人の場合、やり方が間違っいたり、一生懸命とは言っても自己満足であって他人から見るとそんなのは一生懸命のうちに入らないといったことが多いものです。

人は自分の不勉強や努力不足を棚にあげて自分がうまくいかないのを環境や、他人のせいにしてしまっている。

失敗も成功もすべてその責任は自分にある。しかし、それを認めずと自分の弱さを認めることにならないから、どうしても他人や社会のせいにしてしまう。

こうした心の弱さが人生の大きな障害となっていきます。

人生の勝敗を決めるのは、すべて自分の心の持ち方にあるといっても過言ではありません。

心の持ち方は行動となってあらわれ、それが結果として出てきます。

心の弱さを克服できた人は自分に責任をもつことができるので、迷わずに自分の人生を歩むことができ、最終的には、人生の勝利者となります。

自分は今、その心の持ち方で日々一善一慶しながら精進しています。

時々、他人のせいにしてしまうことがありますが反省し、少しづつではありますが成長しているのではないのでしょうか。



## 〈寺院行事内容〉

- 10月 5日(日) 午前 10時より 読誦会  
午後 1時より 宗祖日蓮大聖人報恩御会式会法要  
佐渡法難会
- 10月 12日(日) 宗務所護法団参  
池上本門寺 御会式会  
14日(火)
- 10月 18日(土) 鬼子母尊神・七面大明神初禱会  
大古久尊天初願会

## 〈10月の予定〉

- 10月 1日(水) 各々の時間で 大法要の清掃・準備活動  
}
- 10月 4日(土) 午前 9時より～ 大法要準備活動
- 10月 5日(日) 法要終了後 片づけ
- 10月 10日(金) 各々の時間で 例祭の清掃・準備  
}
- 10月 18日(土) 法要終了後 片づけ